

## 平成27年度 第3回 千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

日 時：平成28年3月4日（金）13：30～16：10

会 場：千葉県立中央博物館大多喜城分館 研修館

出席者：委員 岡本委員（議長） 塚原委員 鶴澤委員 水嶋委員 西田委員 常光委員  
博物館 美術館：田村館長 中央博物館：川戸館長 現代産業科学館：小野館長  
関宿城博物館：金丸館長 房総のむら：安藤館長  
文化財課 大谷副主幹

### 【議事概要】

#### 1 開 会

#### 2 館長挨拶 中央博物館長による挨拶

#### 3 議 事

（1）学校教育への博物館の学習支援のあり方について

中央博物館：（資料とパワーポイントによる概要説明）

①資料説明 学校教育との連携データ等について

②パワーポイントによる説明

- ・館の概要・入館者の推移
- ・展示事業（企画展・収蔵資料展・特別公開Ⅰ・Ⅱ）
- ・普及事業（博物館セミナー・体験教室5回・地域連携事業）
- ・学校を対象とした教育普及事業  
目黒区・千葉市の実践事例紹介
- ・今後の取り組みの方向性（学習キットの活用を中心として）  
市区町村教育委員会との連携による校外学習の誘致  
本館または他の県立博物館を經由した利用の検討

議長：具体的な取り組みについて説明がありましたが、質問や意見はありますか。

委員A：教育普及事業は、この館の特徴が出ていてよいが、学校利用が多くない。地元の教育委員会との連携が必要。博物館がカバーできるエリアの教育委員会にアプローチすればよい。

委員B：千葉市の6年生は、農山村留学を行っている。5年生は長柄町の施設を利用して移動教室を実施している。どちらも千葉市が往復の借り上げ送迎バスの費用を負担している。途中下車が難しいのでうまく連携できるかが課題である。また、活動プログラムを組む場合、保護者負担の軽減が課題であり、学校が独自にバスを借り上げできるのかは、微妙である。

中央博物館：バスの利用等詳細はわからないが、少年自然の家の担当者がコースとして大多喜城分館の利用を組んでくれている。

議長：目黒区は施設を持っていてカリキュラムに位置づけているが千葉市の取り組みはどうか。

委員B：千葉市は、各学校が全て実施計画を立てている。活動のねらいや学習のことを意識して丁寧な取り組みが必要である。また、6年生は授業時数が足りない。本校では、余剰時数が20数時間しかない。その中で歴史に関わりのある教科では苦心しているので、出前授業は大変有難い。これらの事業は有意義なので周知されればよい。そのためにも体験で終わらせずに、授業として学習に位置付けられればよい。鶴沢小の出前授業は内容が充実していたのか。

中央博物館：人数が多く時間がかかってしまった。

議長：出前授業は、県内のどこでも対応できるのか。

中央博物館：四街道市・千葉市・市原市あたりまでは対応している。

議長：どのような周知方法をとっているのか。

中央博物館：インターネットによって周知している。体験してよかったという声を聞く。

委員 A：利用する教員の企画力にかかる。博物館利用のモデルケースやプログラムを用意して、教員が応募して優れた企画にはバス代を出すというのはどうか。

中央博物館：中央博本館では6月15日に教員のための指導者向け講座を予定している。

委員 A：先生方を集めた講座は必要である。夏休みの研修で教員が使い方を提案するようなこともよい。

議長：学校連携を周知すると、申し込みが集中して対応できなくなる可能性もあるのではないか。

中央博物館：調整は必要になってくると思う。対応するキャパシティがないのがデメリットである。

委員 C：現状スタッフでよくやっている。広がりすぎると大変である。甲冑キットは手間暇かかるが、子どもが変身できるのが魅力である。目黒区は施設を持っているが、目黒区と同じ条件でできる区市町村はあると思う。

中央博物館：県内でも市町村のバスがあるので、学校はそのバスを利用して大多喜城分館に来ていただくこともできると思う。甲冑はずっしりして重い。変身願望とつながり、効果的な学習を提供することができる。

議長：実際の重さを体感できるのも重要である。

議長：一領いくらぐらいか。

中央博物館：本多忠勝で100万近い。決して安くない。

議長：今の数で間に合うのか。

中央博物館：今の10領で対応可能である。1回の装着で10分。写真撮影で5分。脱ぐのに5分。全部で20分かかかる。20人いれば40分の時間がかかる。

委員 D：学校と連携してよくやっている。本館の応援とボランティアでよく対応している。予算化できるものであればバス代の費用を出してほしい。とても熱心だが大変だと思う。

委員 E：学習キットの利用が増えたのはよいことであるが、今後の課題としては県内の利用者が増えたらなおよい。その事によって県の博物館としての付加価値もあがり、バランスがよいのではないか。目黒区以外にもキャパシティの問題もあるが、対応できるようにして他の区への対応もこころみてはどうか。

中央博物館：2月の校長会で館の教育普及事業について広報している。本館では昭和の民具での体験を蘇我小が行った。子どもは3、4kmを歩いてきている。工夫をして近隣校にも来てもらいたい。

委員 D：ボランティアの着つけは若い方がやっているのか。

中央博物館：定年を過ぎた方である。

委員 D：ボランティアが継続してできるように若い層に引き継いでいけたらよい。

## (2) その他

議長：バリアフリーの改修はまだということだが、その辺の分館のリニューアルなど明るい展望の話を知りたい。

文化財課：耐震化やリニューアルについては毎年予算要求しているが、付かない状況である。我々としても計画を出し続けていかなければいけないと思っている。

委員 E：その他、入館者を増やす取り組みとしては、分館としてどのようにお考えか。

中央博物館：スタッフが少ない中で分館の特徴を出すようにしている。いつ行っても重要文化財クラスの資料が見られるということと、城や戦国ブームに乗るようにしている。

委員 C：企画展の有効利用を図る。資料のよいものを工夫する。五感を利用した学習キットにはチャンスがある。フィールド型の学習など、学校は異年齢の交流で地元の方と関わることを行った方がよい。

委員 A：博物館はコミュニティセンターとして機能している。本館の自然誌フェスタのように分館で

も同じ時期に同じことをすればよい。千葉の歴史フェスタなど全県で企画するのもよい。

議長：大多喜には森宮に埋蔵文化財の収蔵庫がある。博物館に管理を移した方が、展示等、より活用が図れるのではないかと考える。博物館資料・埋蔵文化財を全体的な構想で、保管や活用ができるように文化財課において検討していただきたい。その中で、この分館が活動できるような方策を作っていくことも必要である。

委員 E：研修館のトイレの件ですが、男性と女性が間仕切りも無く、同じ場所というのはいかかなものか。室内に間仕切り用のドアをもう一つ造ればよいのではないか。予算として15万～20万程度でできると思うので、最低できる施設整備としてぜひ早急に改善してほしい。また、本館の洋式トイレも最低行える施設整備として改善する点がある。

文化財課：県立博物館のトイレを順次洋式化する整備をしているので、その中で対応していきたい。

委員 E：さっそく実行してほしい。高齢化社会になってきているので、できればエレベーターの設置もしてあげてほしい。

議長：他に意見がなければ終了とし、進行を事務局に返し閉会としたい。

#### 4 閉会